洋学文庫
文庫8
D 409

邏媽人款狀

文庫8
D 409

010190618051

異人申口之覚

一 いたりや国之内ろうま之者ニ而候、名ハよ王んはつ
ちすたしろうてと申候、歳四拾壱ニ罷成候
一 私儀ろうま切支丹宗門之師ニ仕候、出家ニ而御座候
一 私国元ニ母存命ニ居申候、兄弟も御座候、私国門出家之
御座候、妹も御座候処死申候、尤私妻子ハ無御座候
一 私儀ろうま切支丹宗門之総司不入ニ而御座候、ほさ志と
と申者六年以前ニ申付、日本ニ切支丹宗門之法を弘め候ため
被仰付候ニ付、申請候而日本之詞を覚、三年以前七月上
旬ニ法を弘め候と申候、右之刻私国門より出家二人差出候而之

増田氏図書
増田藏書
41- 7323

中者共人気も無之国かしく下知ニて唐小京へ参申候私一同
論り漕出船仕候かま之いと申小船弐艘類船為致申候
申候ニ付夫かおかみやし申候へ参ニ而ふらん沢山
ニ大船弐艘ニ私并ニ同門之者共人荒気リ組水主召拾人
余程荒気呂宋ニ参申候所同門之者共人ハ唐之内小
京ニ参申候私儀ハ日本へ心さし参申候処風久論へ参
着仕候ニ付共人陸へ揚り申候

一 船中水掃底仕候ニ付右之沖ニ而魚取之船を見掛候而橋船ニ七八
人乗り水なとも貰ひ申候呼掛申候得共言葉不通陸之方へ漕行申候ニ
付追ひ付キ承申候

一 私儀風久論ニ揚り申候所日本人家ニつれ行申候其節
日本人召人ニ至合ニ為致候而金子を取出し右之為價出候得共
早速指戻し申候尤船ニ而江戸人つれ行候而相尋と申掛候得共
言葉通し不申候

一 私乗渡候船ハ風久論ニ其侭ニ而海へ沈り申候皆々承候

一 私之外共人も日本之地ニ揚り不申候尤私ハ以前ニも同門共
共人も日本之地へ参不申候

一 風久論ニ而右之日本人宗門之吟仕関に候得共一切言葉通し不申候付
此者共尤日本人ニ而候得共同し宗門之吟仕候得共
言葉通し不申候

一 日本人之風俗之形を学候儀甚敷之風俗をまなび不申候得共前之者哭乙申候と自日本人之姿ニ替り申候私国門之者今度唐人之来候ハ唐人之風俗ニ替り申候

一 日本衣類并ニ刀ハ呂宋ニ而求申候月頃ハ都中ニて売申候

但呂宋日本人ハ尤日本衣裳ニ而居申候呂宋人ハ

日本人居申候所ハ国之一所ニ集り居申候

一 江戸人来申候ニ申候ハ江戸ニ而宗門を弘メ申候心底ニて参候者ニ而御座候得共忍ひ候者も御座候由ニ申候得共日本之内何ぞニて

一 私儀日本へ御留置被成候得ハ又日本へ参候儀も難成奉存候

一 又ハ日本ニて如何様之御挨拶ニ候哉不苦候段随分御懇国中相ニも日本ニ而参候儀成候 又ハ地へ参候段 御下知次第仕候様ニと申渡候

一 日本ニ而切支丹宗門御制禁之儀成就致国元も其様ニ而在人ニても有之候儀ハ右之儀者参候 御尋申付候所被仰付候

右之趣あらましに候人ごとに申 阿蘭陀人へ尋申候得共人へ尋掛申候所右之通返答

仕候由ニ御座候 申候ニ付 和蘭陀 和解 相済申候以上

かぴたん 通詞

子十一月

あゝでまじ風んごう
通事目付
通詞

異國人致所持候大袋之内諸色之覚

一 四角成ビいどろ鏡之様成物壱

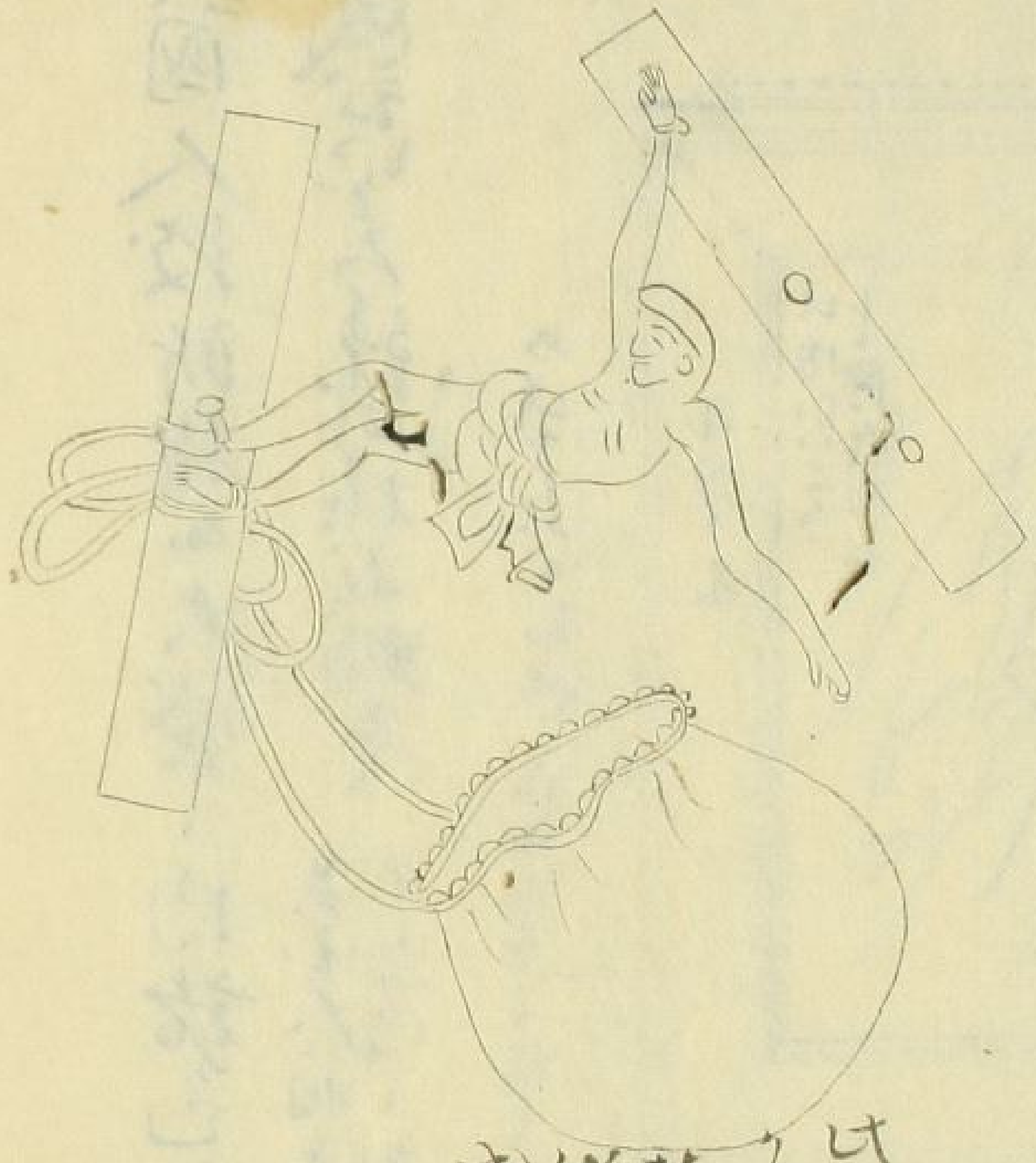
異国人ニ相尋候処さんたまりやと申
宗門之本尊と申候

如此きれニ而御帽之様成物包ミ有之候

竪壱尺
横八寸五分
但裏ハ塗木ニ而
かものびろうど打有
之ハ赤びろうどの
袋ニ入

一 からくりにある抜荷人形之事

但袋共



異国人ニ相尋候所人形ハ忍びきりすてんや宗門しかなる品

并ニ袋ハ過いすさあきろと申物

にて御座候

此人形并ニかくし

入物にからくりの様ニ

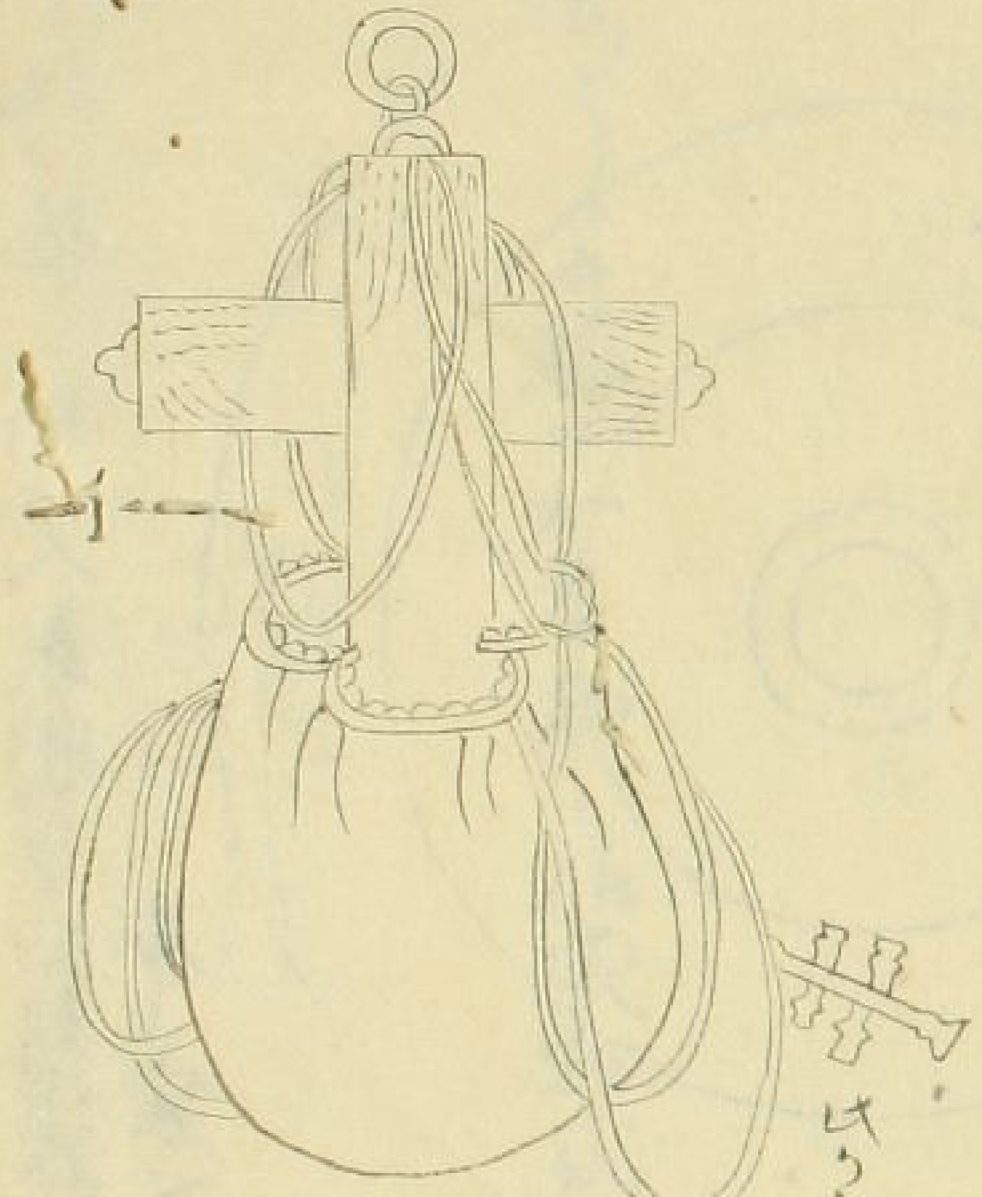
抜付候

袋ハ古き金入ニ候

成きんちゃくにて御座候

一 ぢいごろにある抜荷十文字物之事 但袋共ニ

右之紐にかゝる品を付有候



異国人ニ御尋候所人ぎ

のんごろと申物并ニかる

物もごろんごや物と申此

十文字宗門之上ニ懸候由

大切のものにて御座候

此ら品おき之人ちらしろ抜荷候由

此十文字をおいごろと

申ハ此内ニ佛を入

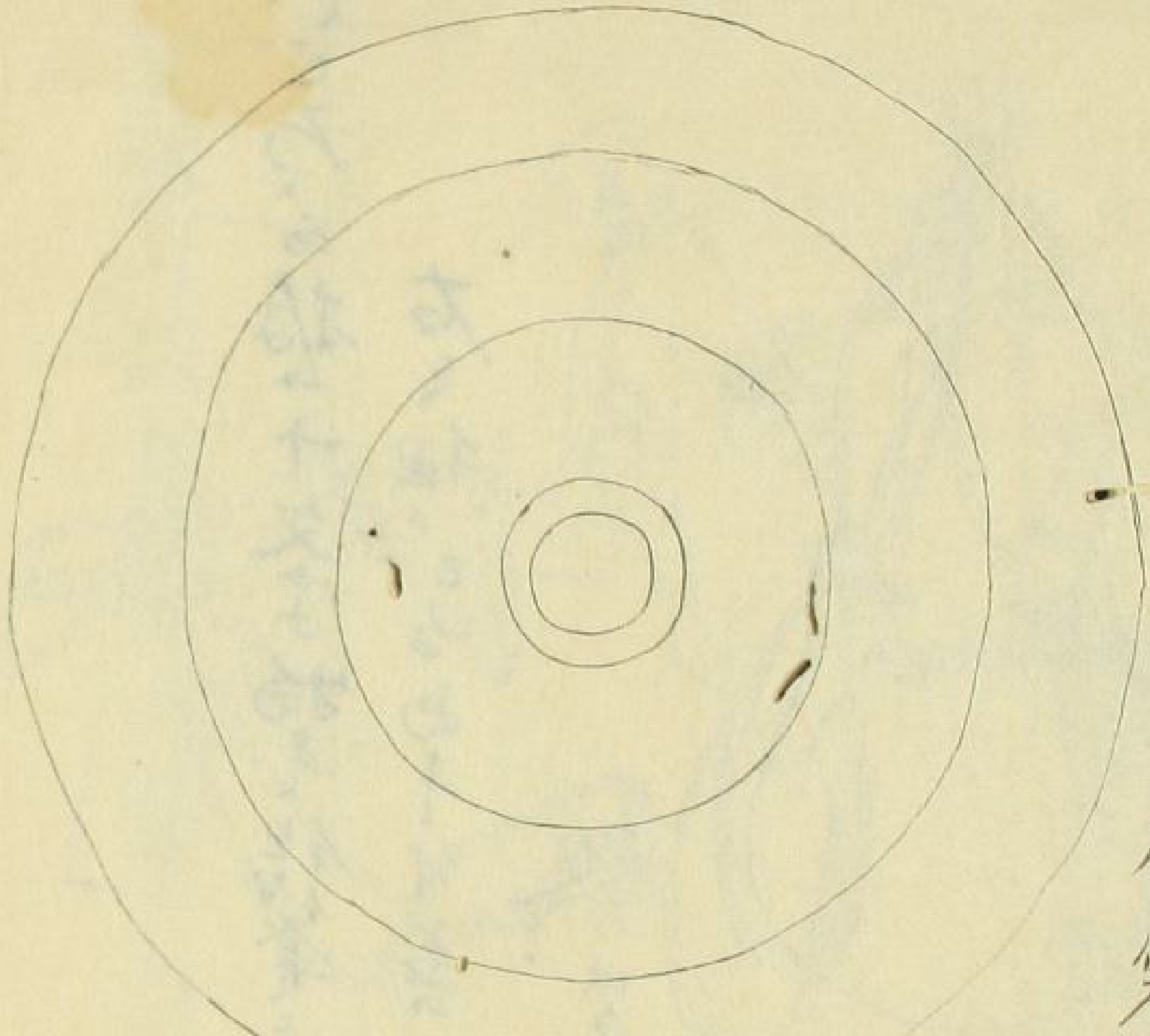
成形仏置申候由おん人へ

金ニて大りかねにて角も

并ニ合んとかなき紐付

袋ニ仕付候由申候

一 金ニて拵候物ニて但裏表銀華袋ニ入
一 金ニて九ツ抜て内ニ人形付候物数四拾弐
右ハ袋ニ入

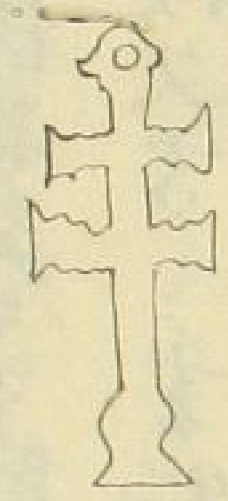


此二色異国人之お寺ニ不
純の拵候物ハ進せさあり
[illegible]金ニて九十[illegible]
めたありやこ中[illegible]
大切ニ[illegible]中ニ[illegible]
門ハ道具貴キ物ハ不依何ニ
[illegible]

十｜

此大サ六寸四方
表ハ絹裏ハ銀ニて張り
拵候物但ハ華縮ニ
入有之候

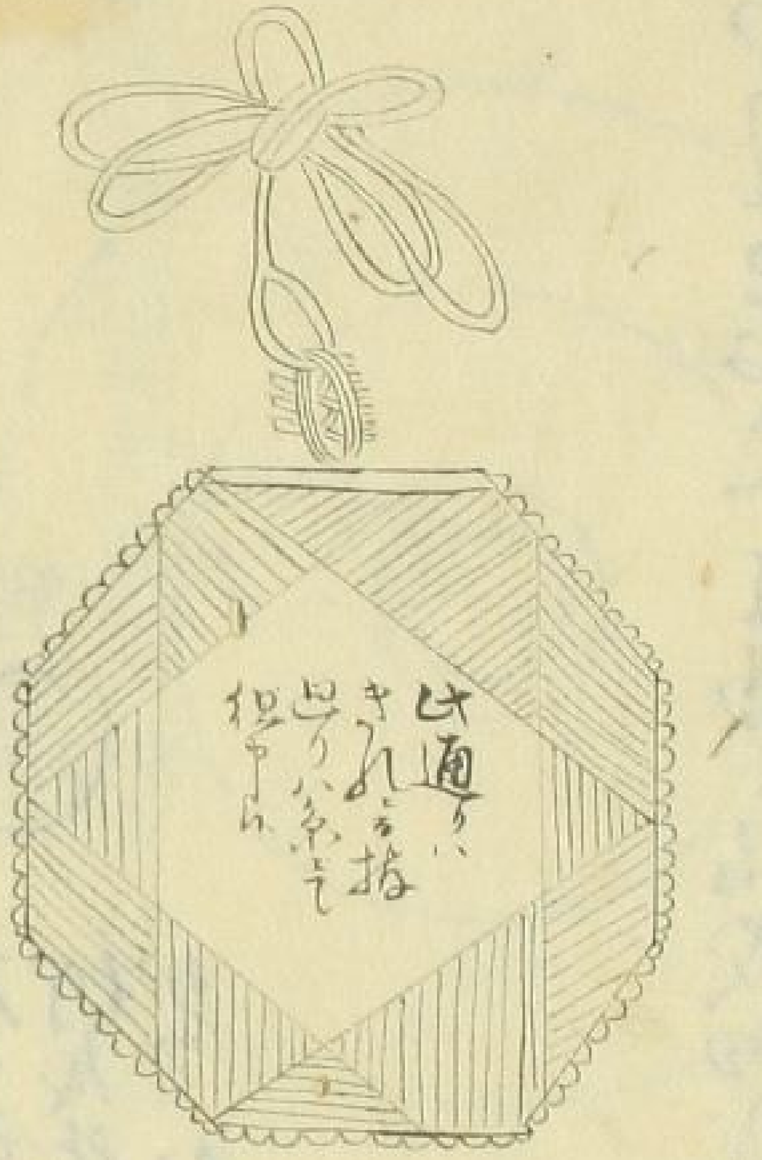
金ニて大サ七分四方程
厚サあり候程ニて有之
何茂金ニて中ニ絵有
かつかり中ニ数四十二



一 ちんちうと申ものかなものニて拵候物弐
異国人之お寺ニ不[illegible]
[illegible]

一 守袋ニ杯ヲ抜但掛ケ有之物壱
但中ニ横文字ニ書物有

異国人ニお尋候処
見しも迷すさあり候得と
申ニ而も得弁申ニ有候
書物大切成物ニ而申之候



上ノ方ニ口有之候
廻りハ たんりうニ而ニ而
かの毛ニ而申候

一 銀ニ而盃之杯ニ抜足を付候物壱

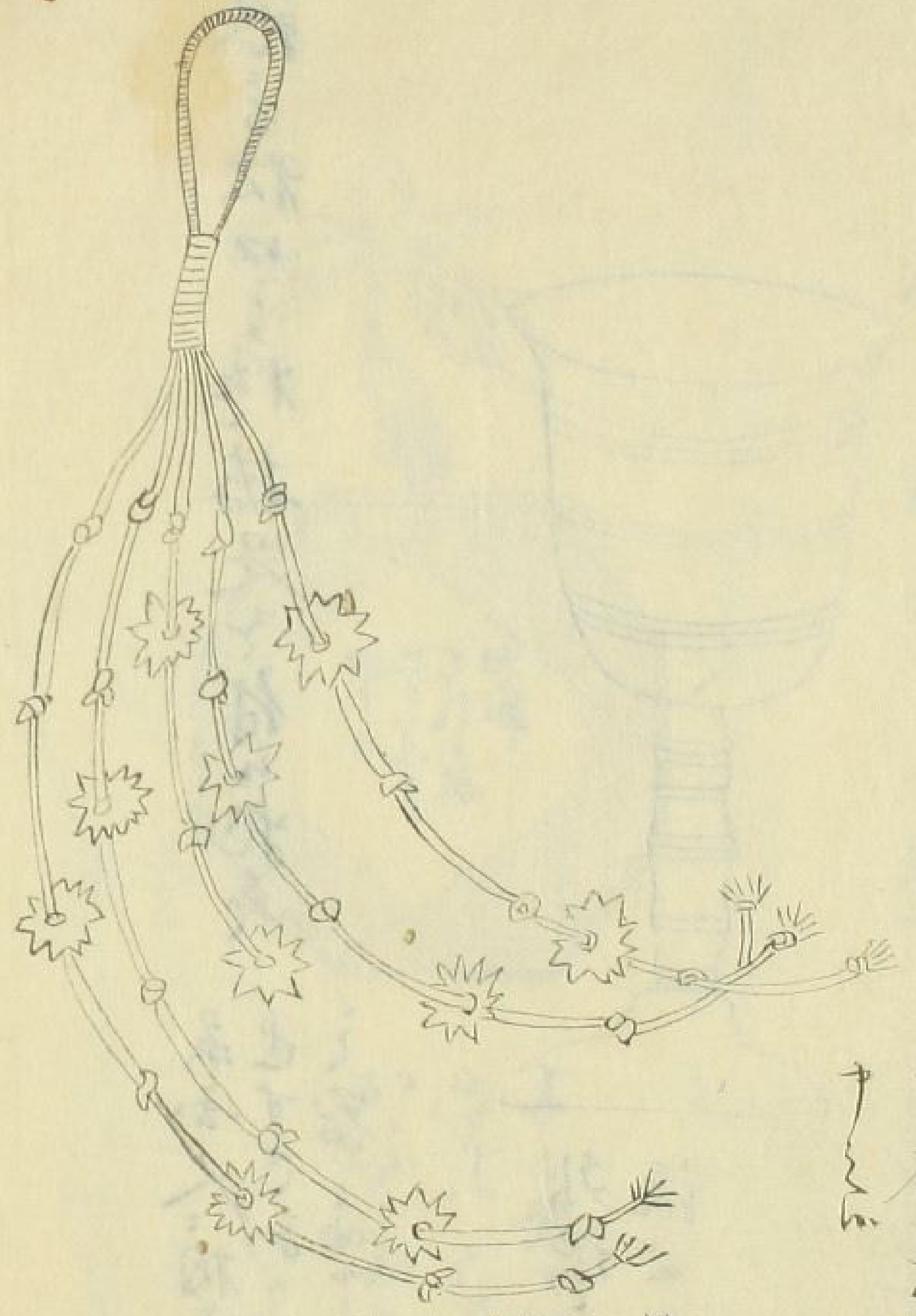
異国人ニ相尋候処是も
迷すさあり候得と申宗門
之器ニ而申候

外銀ニ而内ハ金ニ而
流し候ものと相見候

右ハ赤革ニ而袋ニ入其内ニ金の花りうニ而二把入有之候

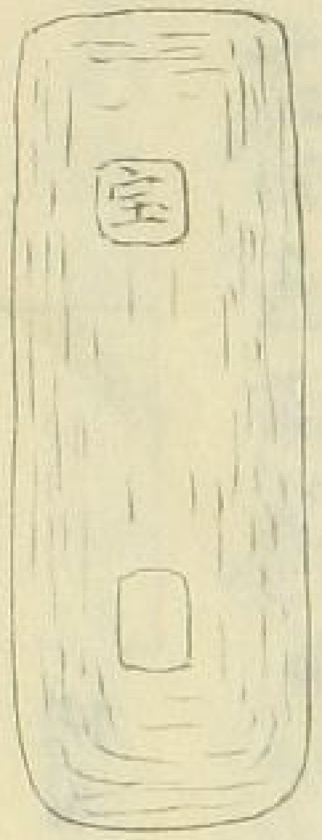
一 苧縄ニ而梅かる糀を入置候物之

異国人ニ而右ニ而不て之
ひとゐゐるニ中 物ニてハ
悪念起り候時分此縄を以
ミ分を打痛中抱候
中ニは



此苧縄ニて
三尺程ニ掛而
結ひ目有之花
し形角ニ而か
なものニ入置候

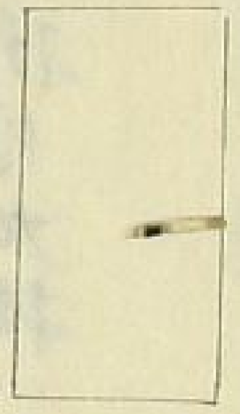
一 呂宋国ニ而取替候金之



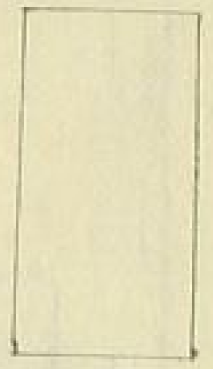
此掛目九拾八匁

此通し金硯墨之様ニ而候
物尤裏ノ方ハ木ノ目も無之
文字し押成程印二所有
之候得共慥ニ難見分候

一 同板々々之粒成金大小百八拾壱



掛目三匁七分餘



掛目二匁餘

掛目壱匁五分

此金大小合百八拾壱枚
掛目惣合三百八拾五匁

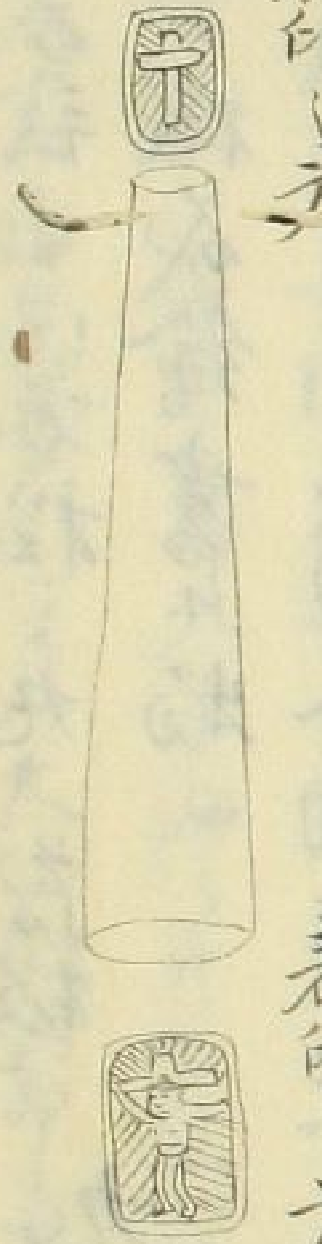
一 同小キ丸金 百六拾粒
但粒大小有之丸薬之粒ニ候
金掛目不同有之弐分三厘ゟ纔
此金百六拾粒合惣掛目五拾
壱匁

一 日本小粒 拾八 但新金

一 銭
右ハ色取集ちか乙備ニ入有之候

一 鐚 但寛永日本銭 七拾六銭
康煕唐銭 三拾銭

一 識之印判 壱



裏印之方
表印之方

一 ひいどろ弐寸四方程之九ヶ落板ニ彩色ニ而仏之模成繪書候物 九ツ

異国人ニ相尋候処犬志よ忍できろすてこと申物之由申候

一 仏之模成繪赤地金入之守袋ニ入 壱ツ

異国人ニ相尋候処さんたまりやろさありよと申物之由申候

一 横文字之書物大小 拾壱冊 但革之帙有

内六冊ハ異国人不断読候物之由申候

一 同双紙大小 五冊

一 横文字之反古 弐拾四枚

但此内ニろうま總司之方ゟ差越往来切手之由ニ而 壱枚有

一 宗門之仏之繪大小 弐拾四枚

一 黒玉之珠数 壱連 但かさてるし

一 白布ニ而拵候宗門之法衣 壱包

一 右同断 壱帋

一 袖無羽織之模成異国着物并帯共 一通り

一 婦引すこし之合油 但壱箱入小細工之三ツ入御座候

此油異国人おり候宗門之大切成時節為塗申油之由申候

一 枕抽し小香合 壱
　：但内ニ唐さとめ油し注で薬少有
一 蒔絵し中香合 壱 但内ニ物
一 同小香合 壱 但内ニ十物
一 鋏 壱
一 揚し紙入 壱
一 鼻目金 壱 但箪笥入
一 日本拵ニ抜レ刀 一腰
　但刃渡弐尺四寸七分 柄有り 中心無銘 反八分 疵きず無し
　鍔 志んちう弐枚太ぶき

切羽 同 弐枚
柄 志んちう斗形 但柄糸黒キより糸ニ而菱巻
同目貫 金焼付し 枝成金模様 雨龍の枝成生キ物
ふち柄頭 赤銅 雲の模様 金ニ而焼付
縁 赤銅 三枚合 志んちう此如く彫 模様
雲から草の模様 金ころ焼付
鞘ぬり 志んぬり鯉口小尻赤銅ニ而波
下緒 とめん平組の模様物付 黒
目釘 金焼付し 金めくらぎ
右之品々諸し 御改所阿蘭陀人被通達異國人へ

相尋候処右之通ニ御座候 已上

子 十一月

一 以別紙申入之候

先達而申入之候当八月廿九日松平薩摩守方
領分大隅国屋久島ニ而異国人見出候旨届候
并ニ其節出合候由委細書付相添差越候
去十一日薩摩守方より申来候ハ薩摩国揖宿郡
村老人家居出遂吟味候処右異国人八月廿九日
恋泊村松下与申所ニ而炭焼ニ出木を伐申候処
不見知人刀を指参り候様子ニ而何哉咄申候ニ付
右之言葉通不申候ニ付側ニ難参見
合候処右之水を可被下仕形見せ申候ニ付被為指出

器ニ水を入手ニ付後ニ返キ申候得共掘候而
刀を指居候故氣遣ニ存候得共付不申候処右之
人刀を鞘共ニ出し候近寄刀を請取申候其節何之
人共ハ戌亥ニ罷居候故右之刀を脇之本ニ根差置候並
被為遊候而見届ヶ申候右之人ニ懸ニ罷居候村之者安芸濃
中老を以怪我之見無之候得共何故来候哉相尋申候
平内村之百姓共ハ石居候之者共ハ手を引き候左折候方を
指使ニ通シとて来候ニ異國人村之方ニ手を指
草臥候躰ニ相見候故其者共ハ大袋を持参致候
刀を指候安芸濃ハ異國人ニ手を添候安芸濃ニ連

尼為候者ハ其者共ハ宝前之者指出ニ使ニ来候
其節近村之者共申出候安芸濃方ニ来候故食
を構異國人ニ給させ申候彼是支度食事致出来
給させ申候得共給申其節茶を出し何角候食を
給させ候得共怪我抔子細ニ無之候ニ付別ニ返シ申候
何角ニ異國人ニ申候一圓言葉通不申ニ付内役人
壱人ハ大概之者ニ而安芸濃ニ罷候事

一 安芸濃ニ出候処右安芸濃ニ申候通相違無御座候
右近郷ニ異國人ニ候ニ付直ニあるこども役
人共ニ茂申廻り其節ニ候不存候方之翻作也

又夜ニ入候方ニ而ハ宮畢役人妻人共大勢ニ而居
申候由ニ御座候事

一 其東の方浜辺の寺人家有之候所又宮前夜ニ入候ニ
申口之通り申候所遠方ニ而居候右両人共荷物持出ニ
来候所致し候不存候由ニ御座候事

一 右東の呼出し候所ニ而又夜ニ入候申口之通り遠辺ニ
而出候所人見物ニ而候所ニ付夜ニ入候方ニ而見受
人ニ不参様ニ致させ候様申候なとして申候ニ付異国人
何哉覚申候得共一円言葉通不申候尤何ニても世話
申候ニ付其所ニ而相済申候事

一 当八月廿八日大隅国屋久嶋之内湯泊村之沖ニ而異
国船見掛り候節阿波国之漁人船臥市右衛門水主
実右衛門右衛門浦浜家の市十郎仕助右之人薩摩寄
方家来共ヘ異国船送越候処去廿一日右之人宛
召出御尋ニ而船臥市右衛門申候者去八月廿八日湯泊浦
湯泊村之沖ニ而見出候処陸ヨリ三里程も有之哉
沖之方ニ唐船之様成帆数多掛船之様相見候ニ付
付唐船と存先達而ヨリ存候常之御法度様
唐ニ存村之方ニ乗戻候所又漁ニ橋船ニ乗異国人
追々廿申躰ニ而見候ニ付早々乗返申候而急ニ

漕来間揺居許候処ニ付右橋船ニ寄りを立水を
居候仕船を段地方ニ方ニ申ひさし候ニ付水ハ法度
ニ相成候も無之見申候る船を押切粟生村ニ方へ
罷帰申候右橋船ハ其船ニ方ニ乗戻甚以難儀
不届ニ候間申上候事

一 右沖ニて追ニ付候節異国人何を申し候哉相覚
候哉と相尋候得共何哉挨拶と言候得共言葉
通不申ニ付同人ニ相尋候ニ付成候所何とも不存候
右之首尾ニ付候段物ニ逢候儀江此注候也
市兵衛申上候事

一 其外実右衛門清右衛門喜右衛門休助市十郎共五人家
右衛門承り候平吉市右衛門申口通り候儀相違無御座
候事

右之通異国人ニ携候儀与右衛門安右衛門両人之内
喜右衛門右衛門幷ニ湯沼沖ニて異国船見届り
申候漁人船江市右衛門水主実右衛門喜右衛門清右衛門
市十郎休助都合拾壱人ニ而遂吟味候
處異国人申口ニ通り候儀相違無之候尤猶又
被申付候処疑敷儀も無之候ニ付右之者
共儀ハ拙者共所ニ預置候様被仰付候ニ付

右之趣御座候ニ付御老中江可申上候以上

十一月廿六日　鈎本根肥後守　御判

別所播磨守　御判

永井讃岐守殿

佐久間安芸守殿

一

以別紙申入候

先達而申入候従薩州送越之候異国人渡来之由追遂
吟味候処此者ニ於而申入候ニ通事申候依之阿蘭陀人
を以為致通達候処相分り候得共少々申入候通異国人事
ニ而阿蘭陀人を嫌候様子ニ相見へ候ニ付不斗阿蘭陀人は
出合候て相さへ候ハヽ申口茂滞可申と存候ニ付かひたん阿
蘭陀人を相除キ其書為通候得共其者人目ニ付候ハヽ茂
まじく申候ニ付深段混雑難聞届候申候ニ付異国人ニ
為申候得ハ甚右口通不申候而申候段凡目ニ於人少信
りく候ニ付阿蘭陀人を召寄て段通させ候申合候様是

異國人疾ゟ波納得候ニ付去十九日南蠻口覚申候
阿蘭陀人壱人かひたん召連罷出かひたんハ物陰ニ
控罷在候由申候
一 阿蘭陀人を以異國人ゟ相尋候処甚兼ゟ異國之内
いつれの國と存すてめ何様之心持ゟ日本ゟ渡海候
哉と問候処異國人答申候ハ某ハいつれ之國之内
ろうまと申所之切支丹宗門ニ出家ニてよはんはつて
すしろうてと申ものにて候処ろうま宗門之
總司かんこゑきさてもんと申師匠之被通ゟ
数年宗門之学文仕三老程之出家ニて宗門之師匠とも

被仰付候而此度右師匠ゟ六年以前相弟子三ヶ條
すてこ修のんと申者と某ニ申付候ハ壱人右日本ゟ越
宗門を弘メ候様ニと申合壱人ハ唐國北京ゟ参兄文宗
門勧候様申付候旨三年已前七月上旬両人共ニ同日
ろうまを罷出かなりいと申小船ニ被渡る乗つれ其外
と申所ニ着夫ゟ壱人かなりやと申所ゟ乗テ被ゆるんと申
去國之大船ニ被乗ニ壱人宛乗組水ニ而唐人抱乗
呂宋ゟ参此所ゟ壱艘ハ小宋ゟ乗別レ某ハ日本ゟ
心指方之乗廻り漸当八月廿八日大隅國屋久嶋之
湯泊村之沖迄被送船ゟ処船中水掛底候付橋船て

乗移りこれ迄を寒居り候処折節橇船壱艘日本人
六七人乗組漕ぎ来り候へば彼橇船を追ひかけ
指図仕り乗替候節其船を立水と見え候
手招きを致し候得共日本人皆る不致同心様子にて
振其上おそれ候哉足て漕退申候夜みて其船乗り
戻り翌廿九日朝右之船へ其壱人を橋船に乗せ
為致参ニ卸置其外之者共ハ直ニ本船ニ乗移り
則刻致出船本国へ罷帰り其壱人ハ居残り候
たとへしらあるき見申候処日本人壱人来を
嫌ひ居其侭近寄物申かけ候得共言葉不通

不申候夜水望候ニ付て見せ候得ハ呑水を呑せ申候
其後日本人三人来り候而其上人家へ召連合申事等
あつかひ申候其節居り候而代金等を遣し候得ハ印居候
指戻候由異国人申之候事

一 又相尋候処其方日本人ニとらへられ候ハゞ鉄炮ニても
日本ニ捕へ候得ハ日本ニて捕へ力を指居候
いかゞ何様之心持ニて右之族といふて候哉於居
又強く日本人を取巻候刀等ニても調申候哉
異国人答申候ハ異国之姿風俗ニて居候得共日本
人ニいたし可申与存候得共宋国ニおゐて日本人ニ会し

猶日本拵之刀調申候さやまきハ船中まて乞申候
日本人ゟ貰候品不申候尤其所之風俗をまもり
不申候得共甚尊之者笑ひ申候と存 北京ゟ来候
国門之者も唐之風俗をまもり候て在城候由
異国人答申候事

一 又尋申候ハ右乗来候船日本ゟ同所へ帰許され候
乗行甚方難くとの御座候哉此以後海路より
国門之者参候様まかり合候哉日本ゟ止り在之本国
密々に可被通路申合仕候哉と相尋候へハ異国人
答候ハ左候ハゝ某老人御免甚外何迄も不知も

御座候之老人幷存候庄候船ハ直ニ本国へ
在帰候尤此後海上来候とも申合不信日本へ
止り在之候とも本国ゟ通路之儀ある申合不仕候
答申候事

一 又尋申候ハ元方乗来候船ハ何ともまし無用か
仕立遣候哉又使船を出し来候哉 異国人答候ハ
右乗来候船幷ニ北京ゟ来候船も何ら人之国
船まても庄候にはらんへす国之使宗門一派之国にて
候ニ法ニ付語りまし總司申付て日本北京ゟ宗
門勤ニため来り候申候在同宗之者之候ニ候而船

水主共ニ償銀ニ申付し差し送越申候由答申
候事
一 又於右之者方ニ以前ニも日本ニ宗門勧めた
めに差越候者も有之候哉右様之手筋を以て
渡来候者人相越候哉と相尋候処異国人
答申候ハ某ハ以前ニ日本江渡海致候者之人も
無之候故何と手筋も無之日本之内ハ不存候
成とも揚り宗門を弘度候に付日本江参申候由
答申候事
一 又相尋申候ハ其方江戸江参候由長崎より参候
候之儀申候如何様之子細ニ而候哉異国人答申
候ハ私国ニ而日本ニ而付候節も江戸ニ而在留致候
も不申付候ハ長崎ニ候処阿蘭陀人在留候所及
承候私国ニ而ハ敵国之事ニ候故江戸江候ハ呂宋
国之日本人も在留日本之様子書記候書物も
無之候ニ付承及江戸へと申候哉候由答申
事
一 又尋候ハ其方日本言葉を何ニ而申候何方にて
日本言葉相習候哉異国人答申候ハ六年以前
呂宋日本渡海之候就中付日本国之言葉ハ

通用難成候ニ付日本言葉なと書記候書物ニても
習候由答申候事

一 又尋申候ハヽ、其方屋久島ニ揚り候刻ゟ以来日本人ニ宗門之咄とも致し勧候哉、日本人ニ何ニても示し申せ候哉、異国人答候ハヽ、屋久島ニ着元ゟ只今迄之内日本人ニ宗門之儀も申聞せ候得ハ言語通不申候故一言茂申入不申候、屋久島ニて水なと呑せ人家ニ而連食事給させ申候ニ付、右之為便金子日本人ニ遣し候得共取不申、甚侘返シ申候、右之外何ニても示しこても申せ申事無之候由

答申候事

一 又尋申候ハヽ、切支丹宗門之儀者日本国中堅ク制禁ニ候段存知ゟ候ニ、其国ゟ申付ニ為致渡海候哉、又ハ右之段不存候而参り候哉、異国人答申候ハヽ、於日本ニ切支丹宗門御制禁之段者其国ニても不及申ニ人々不存者ハ無之候、勿論某も存罷在候得共、其国ゟ被申付候ニ付罷渡候、従上ハ日本ニて御留ニ成候而も、又ハ清返しニ成候とも、いか様之掟ニ候得共、御下知次第ニ可成、違背不仕所存之由答申候事

一 異国人被所持候大総之内ニ有之候不ニ邪宗門
之本等并ニ書物之外小道具等茂有之候ニ付
一ニ吟味を為遂申候尤甚タも宗門ニ拘り候珠数
なと有之候ハヽ宗門之書物不残持渡在候右之
品々委細繪図記被成度令進達し候事

一 右道具之内ニ異国之金子并ニ日本小粒目布
銭有之候ニ付何方ニ而お求ニ候哉とお尋候得者
異国人答候ハ如此ニ候得は銀子之外通用不仕候
今度日本ニ参り候ニ付呂宋国ニおゐて銀子を以
金子之両替いたし日本金并ニ銭も被渡候て被

一 用意持来候而差出候事
右異国人ニ被通遂候段阿蘭陀人書付指出候写
和ケ差遣此度ニ差越之候事
右之趣御老中ヘ委細不申上候得共申上旨
中上候間ゟ附之意之御府ニ到而中ニ差上候以上

十一月廿六日

駒木根肥後守 在判
別所播磨守 在判

永井讃岐守殿
佐久間安芸守殿

戊戌夏佐久間維章従肥之島原寓来
其舊寓長崎鎮臺所藏海舶之諸疏府
正之命編三十巻稱曰華夷變態維章
就其中謄此事、至宝永戊子八月其
時長崎町奉行四員永井讃岐守別所
播磨守駒木根肥後守佐久間安藝守
也御老中土屋相模守政直秋元但馬

守喬朝大久保加賀守忠増井上河内
守正岑也